

井戸端だより

第12号

発行日 1995.12.22

発行 暮らしの学習会

1995年も後残りわずか。井戸端だよりも今年最後の号をお届けする時期となりました。1995年は本当に色々なことがありました。阪神大震災をはじめとしてオウムの一連の事件等など……。色々考えさせられた1年でした。

さて、私たち暮らしの学習会の1年を振り返ってみますと、今年は、大きな柱の泉関連の活動、それに新たに異文化との出会いを初めとするさまざまな出会いをコーディネートするという試みを加えて活動してきたように思います。この新たな試みは、私たち自身のためでもあるのですが、さらにまた次世代を担う子供達にもその中から何かをつかみとってもらいたいという願いが込められているのです。そういえば、泉の活動も、「この美しさを孫の代まで残したい」という思いから始めたことでしたね。環境問題にしても、ゴミの問題にしても、子供達を巻き込んだものでない限り余り意味がないのかも知れません。以下、順を追って活動の報告をします。

例の町長の一般質問の答弁後の泉に関しての進展状況を知りたくて9月末、町の産業課に電話しました。一度会ってお話をうかがいたい旨伝えたところ、今回は快諾を得、10月9日1時半から産業課課長と会う機会を持つことができました。当日は、1時に会員6人が町民会館に集合し、一応意見調整をした上で役場へ行きました。そして、「三カ村泉に関してのお願い」と題して私たちの意見を書面にして提出しました。また、白形さんの描いたイラストも渡しました（保全方法の一案として）。

10月9日 1時半～

（課長とのやりとりの一部から）

泉については、今どういう状況にあるのですか。進展状況は？、
……町長が答弁したからといって即進むものではない。水利組合の意見もあるし、学者その他の意見もある。意見の調整に苦慮している。

泉の保全のために作った絵はがきの収益があるので、これをなんらかの形で役立ててもらいたいのですが。ゴミ掃除とかに使ってもらうのはどうでしょうか。

……ゴミ掃除は町が考えていることなので、あなたたちはそんなことに使わず自分達の活動に使ったらどうか。

結局、具体的にどこまで進んでいるのかは課長の口からは聞けずじまいでした。しかし、ゴミの掃除など何か具体的に決まりつつあるような印象を受けました。何とも歯切れの悪いお話だったと記憶しています。

10月16日

10月例会を兼ねて、9月25日に予定していた延期となった「大木めぐり」に出かけました。

大きな木

今年も台風に見舞われず、水不足もそこそこ、お米もまずまずの豊作で、私事ビヤクシ

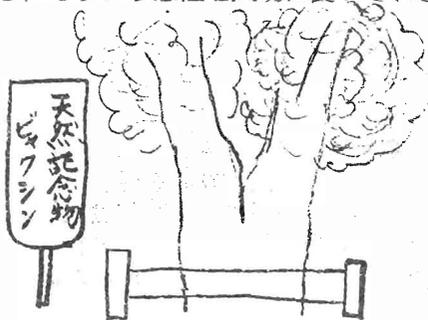
ンもほっと一息ついておりますと言ったかどうか。

ここ大連寺(重信町樋ノ口)の前に住んで約800年、だいふ年を取りました。何しろ国から天然記念物に指定されています。根廻りは7メートル、地上1メートルの所で二幹になりました。(片方に何かあっても、一本は残ると思ったのです)ホントかな・・・。それぞれ1本の幹は目通り4メートルの太さ、高さは20メートルになりました。まだまだ元気です。

木の下に立つと、何かいい香りがしてくるような、フィトンチッドが降り注いでくるような気がします。ウロの中にはムササビの仔が息をひそめているのではないかと想像をたくましくしますと、はるかな昔、どんな人がどういう気持ちで、この木をここに植えたのだらう。それとも鳥の落し物に混じってここに芽を出し、双葉から育ってこんな巨木になったのだらうかと限りなくロマンをかきたてられます。

800年と一口に言ってもその長い歴史は里の暮らしや戦いのさまを、人々の営みを、じっと見続け、私達に何かを語りかけている様です。つらい時、悲しい時、大きな木の肌に手を触れ、耳をつけ梢を見上げてみたら、何かを応えてくれるのではないのでしょうか。

物言わぬ木の想いを感じます。”地球にやさしく”なんて言わずに大きな恵みを感じられる、そういう感性を大切に養っていきたいと思います。



10月23日 10時～

異文化体験PARTI・・・重信在住の2外国人の「着物が着てみたい」という願いをかなえてあげようということになり、ついでに私達も彼女らの民族衣装を着てみようということになって開催の運びとなりました。

サリーとチャイナドレスを着ました

よく晴れた秋の1日、インドのヒラさん、中国の郭さんを交えて「それぞれの国の衣装を交換し、体験してみましよう」という集まりに参加しました。

誓って申しますが、電話で誘っていただいた時は「本場のサリーやチャイナドレスを拝見したい」というそれだけの気持ちで、決して実際に手を通してみたいなどという大それたことは考えていませんでした。それなのに、いざ色とりどりのサリーや真っ白なシルクに繊細な刺繍を施したチャイナドレスを見ている内に真っ先に「私、赤いサリーを着てみたい」と叫んでいました。

赤いTシャツの様なブラウスと薄紫色のロングスカートを先ず着用し、その上からヒラさんが、ある時はタックを取り、ある時はプリーツをたたみながら、140cm幅5mの美しい絹の薄ものの布で、私を包み込んでいきます。

最後に肩のところをピンでとめ、額に飾りをつけてもらって完成です。だんだん姿が変化していくのもさることながら、タックを一つ布をひとまきしてもらうごとに、心がだんだん華やかに浮き立っていく自分に驚いてしまいました。

その頃にはGさんの手で、ヒラさんには緑の絞り、郭さんには淡色のりんずのお振袖の着付けも終わり、お二人ともそれぞれにとってもよくお似合いでした。

何枚かの写真を撮ってもらった後、少々名残惜しい気持ちを振り払って、サリーを次の

方に譲り、とても入らないと諦めていたチャイナドレスまでこっそりと試してみましたら、何とうれしいことに入るではありませんか。黒いレースのストールをかけてもらい、サリーとはまた一味違う背筋が伸びる様な気分で、また写真におさまりました。

他の方達も、それぞれに好みのサリーやチャイナドレスを楽しみ、かつて少女だった頃、お正月やお祭りに、晴れ着を着せてもらってウキウキした時の心を取り戻したような半日でした。

しかし、現実には厳しく、東京で学生生活を送る娘を持つ身は、送金の為皆さんより一足お先に失礼しなければならず、その後のもっと楽しかったに違いないお食事会に参加できなかったことは今も心残りです。

今まで、サリーやチャイナドレスは私にとって本当に遠い存在でした。でも実際に着てみると、何の違和感も、なく身になじみ、改めて私達はアジアの仲間なんだと感じたことでした。サリーもチャイナドレスも着物も、それぞれに長い長い時の流れを経てつくりあげられた完成した美しさでした。

それより何よりうれしかったのは、新しいお友達との出会いの場に参加できたこと、旧知の仲間の新しい一面を発見できたこと、でした。

この様な場を設定し、誘ってくださったTさんに心から感謝！！

(K · O)

11月1日 午後7時～ 「モミの木」にて

青年海外協力隊OBの話の聞こう・・・前号でもお知らせしたこの企画、ついに実現の運びとなりました。(出会い塾 誕生の日)

いろいろな人に、出会いたい

自分自身の手や足や目や耳を使って、確かな何かを実感して生活する、そんな生き方をしている人に出会いたい。

そんな気持ちから、今日は渡部隆一さんをお呼びしました。講演ではありません。座談会です、必ず一言はしゃべりましょう。

ということで座談会をしました。出席者は10人、若者も4人出席してくれました。

次のような質問が出ました。

○青年海外協力隊に、いつ頃行こうと思いましたが？

(20歳頃)

○どうやって、その方法を知ったのですか？

(職場の先輩や友達から聞いた。)

○行く時の状態は(健康面や費用面等)はどうでしたか？

(健康。費用は国から出る。)

○現地(南米ドミニカ共和国)に行ってからはいつ頃から会話ができたのですか？(スペイン語)

(出発する前に日本国内で三ヶ月間の研修があって、言葉を教えてくれる。)

○友達はできましたか？友達をつくるコツは？

(現地の人と生活を共にするのだから、すぐ仲間になれた。)

○日本に帰ってから、就職はどうでしたか？

(青年海外協力隊のOBが世話をしてくれた。)

○この経験で何が役に立ちましたか？

(広い視野を持てた。友達が世界中にできた。すばらしい経験ができた。)

○今したいことは何ですか？

(もう一度行きたい。)

以上でした。とても楽しい座談会ができました。(K · K)

三カ村泉の保全を巡る現状報告

三カ村泉の保全に係わる重信町の対応が一部明らかにされました。

・・・・・・以下、その概要をお知らせします。・・・・・・

11月7日

北野田地区町政懇談会において、“三カ村泉”のことで質問が出され、町長が答えました。また、その内容が回覧されました。

町長の答弁によると

三カ村泉のコンクリート工事について、「1,200メートルの堤の内、既にコンクリート打ちしたものを除き、少なくとも400メートルは現状を保存する。尚、ゴミなどを捨てる人がいるため、近くバリケードを張る予定がある。」との報告でした。

――バリケード!? 言葉に驚いて――

11月14日

くらしの学習会としては、事実を知りたくて、三カ村泉のことに詳しい町議の高須賀さんを囲んで話を聴くことにしました。

・・・・・・計画はどこまで進んでいるのか?

*泉の中はそのままにして、ゴミを捨てるので、フェンスを張る計画を進めているとのことでした。

そこで私達くらしの学習会からの要望として、

- ・ フェンス等を張るのではなく、他にもっと良いもので、景観なども考慮した方法を考えて欲しい。
 - ・ 住民全体の共有財産として、町が買い取って公園化（そのままの形での）する方向で進めて欲しい。
 - ・ 第156回の町の定例議会において、諸伏議員の一般質問にもあったように、“自然公園”それはまさに生物が生息しやすい環境で保護していく方法で進めて欲しい。
 - ・ 学校における環境教育の場としても貴重な泉を、よりよい在りようで残して欲しい。
 - ・ 松前町では、住民の要望を行政が取り上げ、町が私有地を買い上げ、泉を利用して公園作りをしているとのこと、重信町でもその方法は可能なのではないか。
- 松前町では、公園の管理は町が行い、水は改良区の人たちのものとして取り組んでいるとのことである。
- 重信町においても、住民参加の公園作りへと広げて行くことは、泉や水への関心を高め、ひいては環境全体への関心も高めるのではないか。 (H・M)

11月20日

11月例会 県立博物館の千葉さん、総務委員の町議山内さんを囲み、“泉のよりよいあり方をめぐって”話し合いました。山内さんが、事前に行政側の計画を確認し、当初補正予算でフェンスを張る計画であったのを一時ストップしてもらい、具体的な方法について私達も意見を出し、町長もそれを聴いてくれるように取り計らってくださいました。

今後、私達としては、町長と泉を見に行った学者グループ、泉の自然について最初にその存続の危機を訴えた橋先生・桑田先生、泉の生物調査を続けてこられた千葉さん、泉をこよなく愛してきた白形さん、川景色研究会の大森先生等などのご意見をうかがい、私達としての泉の具体的な整備の仕方の案を町に提出する予定。一度、町長、担当課、水利組合、各界の専門家、私達が一堂に会し、泉の今後のあり方について話し合いを持つ機会をつくるよう町に申し入れるつもり。

聞いて来ました

～望ましい泉の姿の今後について～

12月4日、午前中は大林先生（愛媛大学農学部教授／昆虫がご専門、以前に重信町長に泉保全について提言されたグループの中のお一人）午後には、楠先生（南日本自然史研究所長、野村町に蝶の楽園を作られ、また、愛媛自然科学教室の生みの親でもいらっしゃいます）をたずねました。

☆午前の部

総勢6名、お天気にも恵まれ、意気揚々とでかけた私達を農学部キャンパスのアメリカ楓の大樹が出迎えてくれました。以下、大林先生のお話をかいつまんでお知らせします。

◎問題点あるいは肝心なこと

- ◆泉は、用水としての存在が第一であること。
- ◆泉の仕組みが、汚れない水系を保ち、それは町の財産である事。
- ◆泉と水路は切り離せない関係（水の流れの距離が必要）
- ◆湧き水のある口の方がゴミ捨て場になっている。
- ◆これ以上、虫たちのすみかを追うことはない。
- ◆（専門の立場から）清流にすむナベブタムシがいる。虫にしても、もう他には住めなくて、辛うじてここに住んでいる。とるにたらないと思われるかもしれないが、虫が住めないなら人も住めなくなるのは必至。
- ◆（回りの田畑に迷惑？）田んぼや畑は単純生態系、そのそばに、泉を囲む草むらがあり、そこは害虫を食べる多様な虫のすみか。

◎具体的解決法

- ◇ゴミはとりのぞく。ゴミを捨てられないような工夫。
- ◇形態としては、柳原泉との中間的な方法で管理されれば。
- ◇事業主体は町。文化遺産としての泉にならなければ維持管理の継続は困難。

☆午後の部

楠先生のお宅のシンボル、ほおのきが皆のお目当てで、この木に会えるのを皆が楽しみにしている。木に耳を当てて、手で触れて、ここに来ると不思議に皆、子どものような気になるらしい。ワレにかえるのかな。

先生に、泉周辺の整備について実行可能な具体的なアドバイスをお願いします、ということで、以下、先生のお話しをお伝えします。

- ◆ゴミ防止には柵が必要。できるだけ自然にマッチしたものを。
(フェンスはどうですか?) 網目の大きさが問題、あれでなかなか日光をさえぎるんです。柳原泉のような“くい”がいいんじゃないですか。あれはまくらぎですが、くり材でなかなか丈夫です。でも調達や扱いがちょっと大変ですから、間伐材などどうですか。
- ◆木を植えるなら、
クヌギ、ムクノキ、エノキ、アキニレ、アレカシ。
クヌギはまた生えてくるからきってもそのままでもいい。
- ◆自然に任す。自然の世界は弱肉強食。
- ◆在来植物は乾燥には弱いから下草はおいておく。

自然の生態系はほとんどすでに壊れている。人間のまわりから、まず、イエネズミがいなくなって、つぎに、ヘビが、カエルが、つぎはモグラのぼんです。残留農薬の問題です。農薬をまず昆虫が食べる、それをイエネズミや、ヘビや、カエルがたべる。農薬の濃度はとりこめば濃くなる、それをどんどんくりかえすわけだから。

・・・泉のことは泉だけでは終わらない、自然全体のことを考えなければ、・・・先生にお会いするといつも目からウロコがおちる。そして、私も何かしなければという気になる。だから、みんなも先生に時々お会いしたくなるのだろう。さわやかな一日だった。

いずれの先生からも、”三カ村泉の自然は、愛媛県のみならず日本中を見渡しても例を見ないほど素晴らしいもの”とのお墨つきをいただきました。ぜひとも守りたいとの思いを新たに帰路につきました。一度壊したら元には戻らない。だから今が大切なんだよね。

.....

いつもくつき虫の様に参加している私です。でも、色々な先生方とお目にかかるチャンスが多く、とても有意義な時間が過ごせ、勉強にもなります。

ここ最近、「三カ村泉」保全の為に、町会議員の方、大学の先生、自然に詳しい先生方など多くの方々のお話を聞くことで、自然を保全していくことの大切さや大変さがよく解るようになってきたみたいです。

重信町は、まだ自然や緑がいっぱいある、と地元の方はいいますし、私もそう思っていました。人工的な自然ばかり多くて、本物は少ないのです。

その本物の一つが「三カ村泉」だとしたら、やはり重信町民の貴重な財産として残して欲しい。そう思えるようになったのも、色々な方の話を聞いたおかげなのではないでしょうか。

「三カ村泉」は今、保全の方向で進みつつあるようですし、私にもできることがあるのならお手伝いしたいと思っています。 (A・M)

色々な人から色々なお話をうかがいました。

12月18日

12月例会で、私達が町に提出する意見のまとめを行いました。

その結果

私達くらしの学習会としては、次のように意見をまとめて町に提出するつもりです。

- ・ 三、村泉は、日本中見渡しても数少ない貴重な自然の宝庫である。従って、町は、主体的にこの泉を守るべく努力して欲しい。
- ・ その際、なるべく手をいれずそのままの形で残して行って欲しい。
- ・ 北側の私有地の部分は町が買い取り、いつまでも町が保全できるように所有権を確保して欲しい。
- ・ 今あるゴミは、取り除かなければならないが、その際も自然の環境を変えないように配慮して行って欲しい。
注意すべきこと・・・下草などは残しておく(地面を露出させないように)。
イバラ、ツタ、カラスウリなどは、根をとらずに上を切る。
木は切らずに、現状のまま
- ・ ゴミ防止策として、フェンスを張るという案が出ているが、フェンスは、日照をさえぎり、またつたなどがからみ手に負えなくなる。また、一旦ゴミが捨てられれば、ごみ捨て場と化し、しかも、今度は取り除くのが大変となるので望ましくない。
できれば、重信町の間伐材を使って杭を打つのが望ましい。その際、町の40周年の行事として、町民全体に呼びかけ、町民参加の杭打ち等を企画するのも一案である。
この方法によれば、町民の自然に対する関心を高め、ゴミ見捨て防止の啓蒙にもなり、一石二鳥である。杭は、10年くらいで打ち直さなければならないが、それも、再啓蒙の機会と考えれば、意味のあることである。周囲の環境ともマッチした杭を!
- ・ 文化財としても貴重な三カ村泉の歴史的な意味を記した看板を立てるのもよい。

- ・ 整備の方法については、短絡的に決めるのではなくて、町関係者、水利組合の人、各界の専門家（例えば、昆虫などの学者グループ、県博物館で泉について調査している人、生態系についての専門家、川景色研究会のメンバー、自然観察会のメンバーなど）、泉に関わってきた私達のようなグループが一堂に会しじっくり意見を交換できる話し合いの会を持った上で決めて欲しい。町が責任を持つてなるべく早く話し合いの会を開き、具体的に進めて欲しい。

12月18日

異文化体験PART IIとして、中国人の郭さんに餃子の作り方を習いました。皮は思ったより簡単。でも中身は実に時間をかけて丹念に作るということが解りました。できたての餃子のおいしかったこと。出席できなかった方残念でした。作り方を知りたい方は、レシピがありますので、林までお申し出下さい。

・・・ちよつといい話・・・

我らが会員、菊地さんと八木さんがこの度、本を出版しました。「仕事ってなあに」県内在住の余り知られていない仕事人にインタビューしてそれをまとめた本です。とてもすてきな本です。くらしの学習会がきっかけになっている本です。ぜひ、読んでみましょう。創風社 1,500円 各書店にも置いてありますが、著者のサイン入りのが欲しい人は、直接著者までご連絡下さい。(964-0387菊地 964-7157八木)

今後の予定

- ・ 泉に関する意見書を町に提出する。
- ・ 出会い塾開催・・・インドのヒラさんを予定
- ・ 1月例会・・・1月22日 1時半～ 町民会館1F 婦人室 ← 総会です
- ・ その他 随時 気の向くままに集まる

会計報告 (1995.1~1995.12)

収入の部

前年度繰越金	36,455円
会費	30,000円
収入合計	66,455円

支出の部

印刷代	3,800円
コピー代	390円
用紙代	1,480円
郵送料	11,740円
お礼	10,000円
手土産	5,960円
本代	800円
パネル代	2,060円
テーブル代	300円
電池代	198円
ゴミ袋	201円
支出合計	36,929円

差引合計 29,526円
(次年度 繰越予定)

会員募集 (随時受付)
会員2千円、購読会員千円
問い合わせ先: 964-6956 林まで

(Y.G)

編集後記 なんだかとても充実した1年だったような気がします。泉も、少し進展したし、異文化体験もおもしろかったですね。出会い塾も・・・みんなのやる気がうまくなかみあって動いているようです。今年から始めた例会が功を奏しているのでしょうか。出会いが出会いを生む・・・菊地・八木著の本じゃないけれど、それを実感できた1年でした。

来年も宜しくお願いします。

(T・H)